

E子のコミュニケーション能力の向上をめざして

—— 生活単元学習と個別学習からのアプローチ ——

田 口 久 恵

はじめに

精神薄弱児はその知的障害を原因として、言語の発達に遅れのある子どもが少なくない。E子もその1人であり、伝達に関しては重い障害の部に属する。「豊かな心を持って、たくましい行動をする子」をE子に視点を当てて、「何らかの形で相手に自己を伝えようとする子」をめざし58年7月から現在まで摸索し、実践してきた経過について述べてみたい。

【 E子の実態と58年度の取り組みの概要 】

1 生育歴

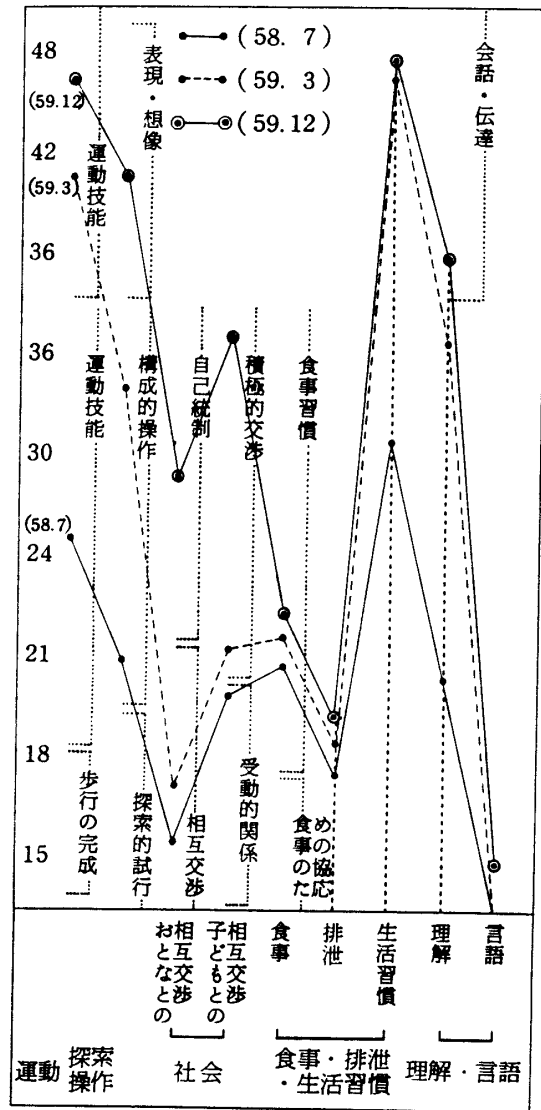
S. 51. 2. 11 生 7才5月 女児 第3子

- 正常分娩、6ヶ月に栄養障害を起こし虚弱体質となり、以後入退院をくり返す。歩行開始36ヶ月。
- 叫声、喃語様音は出るが発語なし。
- 55年4月～58年3月通園施設入園。入学1年猶予。
- 神経過敏、落ち着がなく、視線が合わない。絵本等特定物への執着が強く、声かけにも反応がないため、自閉的傾向を持つと診断される。(54年)

2 発達診断の概要

右図表 ●—● に示すように1.5才程度の発達、中でも発語がなく、言語は11ヶ月と、極度に遅れている。

- 指さし、それに伴う発声がない。
- 砂を入れたり出したりする遊び。丸がかけない。
- さじやはしが上手に使えない。
- 階段のあがり降りに手すりがある。
- 排泄が自立していない。



津守式乳幼児発達診断 (58.7月 59.3月 59.12月)

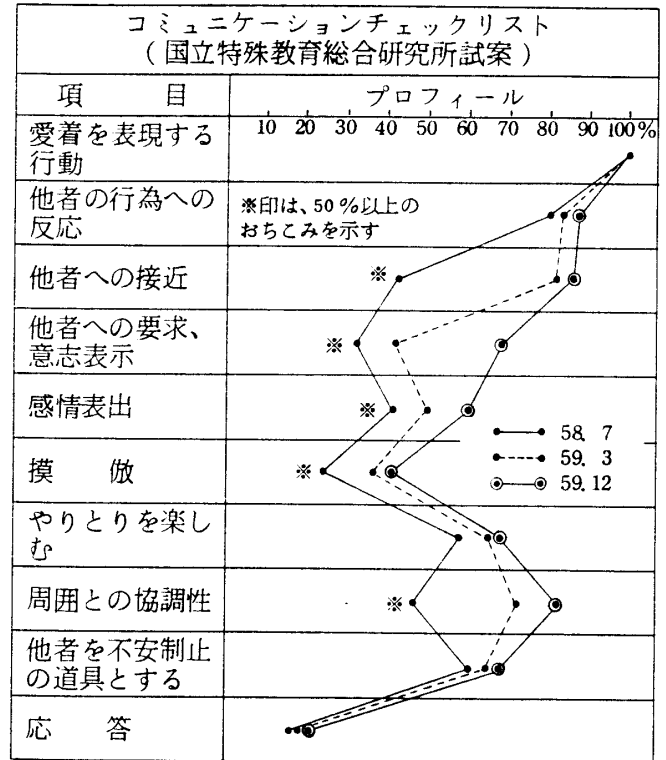
3 コミュニケーション能力の診断と概要

次頁図表 ●—● に示すように、他者とのかかわり、感情の高まりや表出、模倣、応答の面での育成が必要である事がわかる。

- 話しかけてもその人の方をあまり見ない。
- 「ちょうだい」と言っても手渡さない。
- 人がおどっていてもまねておどらない。

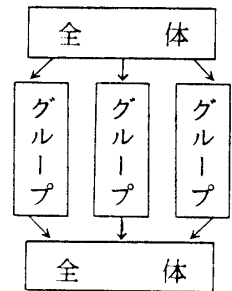
4 指導の重点と方法

指導に当たっては、本児の発達が2才に満たない事、この期の子どものコミュニケーション能力の向上は、意欲的な生活を通じた全体的な発達と切り離せない事から考え、言語や模倣能力の遅れ等のみに目を向けた訓練的な指導ではなく、子どもの全生活をいきいきと、豊かな、楽しいものにしていく中で、心身の全体的な発達を促すという立場をとった。従って、指導の重点を、



- (1) 豊かな生活経験をさせ、心情をゆさぶり、生活意欲を高め周りへの働きかけ、探索意欲を高める。
- (2) 粗大運動による感覚の統合、体力、運動能力の向上をはかる。
- (3) 手指を使った活動による視知覚、手指の機能訓練をはかる。
- (4) 興味ある教材で叫声、喃語、笑いを引き出す。
- (5) 着席、注視、指示の聞きとり等、模倣に必要な態度を育てる。

におきながら、生活単元学習を中心に取り組んだ。但し、右図に示すようにクラス学習の学習過程にグループ指導の時間を約15分設け(教官1に児童



2)、集団学習の中での個別指導に力を入れ、個人目標に応じた学習課題、教材の工夫、援助の工夫等、養訓的配慮を心がけ、生活単元学習と養訓の統合をはかった。

E子には特に、絵かき遊び、のりや粘土やはさみの使用、なぞりがき、文字や絵カードの遊び、歌を使った身体表現等、注視、注意の形成、模倣、手指の訓練をはかると同時に、喃語様音の引出しをはかった。



鬼の面作りにみんなと取り組むE子

5 58年度の取り組みの結果と考察

- (1) 意欲的な取り組み、生活意欲、豊かな心情面では「宿泊学習のしおりを片時も離さず、友達の名前、内容など指さしたりして反応を示した(10月)」「自作のおひな様の前で踊ったり、母を引っばってきて見せようとした(2月)」「学習で使った遊び道具を

見つけ、買って欲しがった(3月)」等、4月当初に比べ、意欲的な行動がとて多く見られた。

(2) 発達面では、「両足とびができた(6月)」「三輪車がこげだした(9月)」「ボールが投げられた(2月)」等の運動面で、「靴の着脱が早くなった(7月)」「スナップが止められた(10月)」「粘土でまねて顔を作った(11月)」等の探索的思考面での発達が著しかった。この事は再度試みた発達診断(P7 図表 ●----● で示す)にはっきり表われている。

(3) コミュニケーション能力について細かくチェックしてみると、P8 図表 ●----● で示すように「簡単な指示がよく聞けた(2月)」「好きな人とびついたり、手をつないだりした(11月)」「叫声、大きい声がよく出だし(10月)、はじめてマンマーと言った(11月)」「ちょうだい、ありがとう(9月)から、ぼうし、鬼、兎等の身振りを指示でしはじめた(2月)」等、大人や友達への接近、感情や意志の表出、模倣などに著しく伸びがみられた。

特に、指示がきけ、歌の振りを模倣した身振り言語の急速な増加、絵本やかな文字等への強い関心、発声場面の増加は、59年度の取り組みに大きな示唆を与えるものであった。

【59年度の取り組み】

意欲的な生活を通した全体的な発達を促す立場から示したE子の変容をふまえて、更に、新版K式発達検査を実施、分析された渡部昭男先生(鳥大)の助言を参考に、本年度は次のように取り組みを一部、発展的に変更して実践した。

1 指導の重点

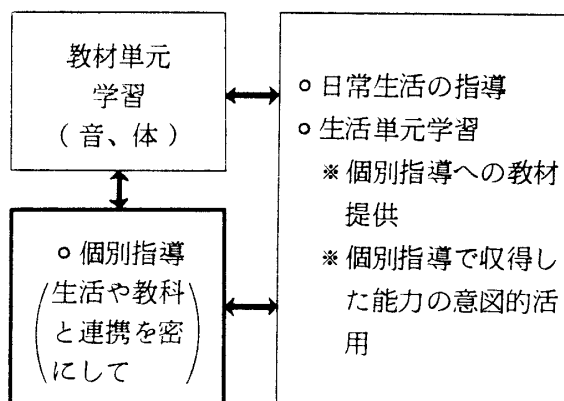
- (1) 自己表現力のもとになる感動、うれしさ、楽しさを遊びや生活の中で更に感じとらせ、生活意欲を高めると同時に、他者への接近、周囲との協調性等の社会性や、言語理解の基底となる予測行動力(見通す力)を育てる。
- (2) 模倣期に入っている事を重視し、ことばと身振りを併用したトータルコミュニケーションを多く取り入れて、理解言語、身振り言語を拡大していく。 — 身振り言語へ —
- (3) 叫声、喃語、笑いを引き出す工夫、抑揚、アクセントをつけた話しかけにより、発声を促す取り組みを心がける。 — 音声言語へ —
- (4) 興味を強く示す絵本、文字を生かして、文字言語獲得への足がかりとする。 — 文字言語へ —

2 指導の方法

- (1) 基本的には58年度の指導法(生活単元を中心に、集団の中での個別指導、個別配慮)を継続していく。但し、見通し、成就感やできた喜び等、内発的な意欲や喜びに結びつく組立てを更に工夫していく。同時に、コミュニケーション能力(身振り、言語、文字)の向上を意図した直接的

手だてを随所に取り入れていく。

- (2) 右図に示すように、コミュニケーション能力に関する直接的指導を個別学習として、週2回程度、個別に取り出して指導する。但し、個別学習で習得したものを生活や学習の中で常時活用したり、P12の個別指導の内容例にも示すように、生活や学習との連携を密にする事を極力配慮していく。



3 生活単元学習による取り組み — 「なかよし遠足」の実践例より —

(1) 単元の概要

この単元は、5月中旬から約30時間、校舎内外、学校付近で小遠足を実施し、集団行動、歩行訓練、遠足用具の操作、遊び等の学習をくり返し、子どもの国遠足へと発展させたものである。展開に当たっては、意欲、見通し、技能や態度の向上という立場から、次の2点を強調した。

- ① リュック、弁当、目的地等、具体物、具体物操作、具体場面の経験をさせる。
- ② 学習の流れを（遠足の話 → 準備 → バスごっこでの移動 → 弁当やおやつを食べて遊ぶ → バスごっこで帰る）パターン化し、徹底してくり返し経験させる中に、少しずつ経験を拡大する。

(2) E子の目標

- ① 次へ次へと見通しを持って、意欲的に行動する。
- ② リュックの止め金、弁当袋のボタン等、一つずつできるようになり、「デキタ」の身振りと結びつけて表現する。
- ③ 要求、喜び等を声を立てて表現したり、指示されて動作で表現したりする。



中庭で遠足ごっこ

10回の遠足ごっこの内容と意図（経験のくり返しと発展）抜すい

回	内 容	意 図
1	おやつを持って中庭まで散歩	散歩の楽しさ、おやつのうれしさ体験
5	遠足の準備をし、バスごっこで遊具庭へ行き遊ぶ	遠足用具の操作、バスごっこになれる。遠足遊びの楽しさ。
10	遠足の準備をし、バスごっこをして、中庭へ行く	遠足学習の総仕上げ、自信と意欲を持つ。

(3) くり返し学習によるE子の変容(5~10回)と考察

目標項目	5回目のようす	てだて	10回目のようす	考察
発声、笑い、指さし 道具の操作	<ul style="list-style-type: none"> しおりの絵、文字を見て声を立てて喜ぶ。 友達の名前を指さす。 リュックの止め金ができない。 弁当袋のボタンができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を巻物で示す。 しおりをくり返し見せ、問いかけをする。 やってみせる→手を持ってやらせる→援助を少しずつ減らす わずかの意志表示も言葉と結びつけ、オーバーにほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 笑い声を立て、手足を振ったり立ち上って喜ぶ。 質問に絵を指さして答える。 止め金、ボタン、水筒、すべてでできた。 「リュックを背負う」ことができない。 水筒、弁当箱を差し出し、ちょうだいをして待つ。 リュックを先生に差し出して「負わせて」を要求。 操作ができる度に「デキタ」を表現。 指示すれば、ちょうだい、ありがとう、ごめんなさい、いただきます、いこう、バス、兎、----身振りを次々とする。 リュックをさっと取りに行く。 名前を呼ばれるまで待つ。 移動がさっさと早くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持った意欲的な取り組み、自己表現が多くなった。 指示の聞きとりだけでなく、見通しに裏づけられた自制的場面が見られた。 道具の操作技能の向上が著しく、「デキタ」の身振りがその満足感・成就感を高めている。 場面、要求と身振りが結びついたり、身振りに対する教師の反応を予想して、意志表示、身振りが増えた。 「予想する→予想通りの反応がある」の場面で、よく笑い声が出た。
意志表示	<ul style="list-style-type: none"> 水筒のねじが不十分。 水筒を差し出して要求。 できないのでウロウロする。 さっとバスに乗り込む。 リュック、弁当袋を差し出して、止める事を要求。 	<ul style="list-style-type: none"> 意志表示を必ずさせてから援助をする。 言葉と身振りを結びつけ、模倣させる。 歌の身振り化。 	<ul style="list-style-type: none"> 「負わせて」を要求。 操作ができる度に「デキタ」を表現。 指示すれば、ちょうだい、ありがとう、ごめんなさい、いただきます、いこう、バス、兎、----身振りを次々とする。 リュックをさっと取りに行く。 名前を呼ばれるまで待つ。 移動がさっさと早くなる。 	
身振り	<ul style="list-style-type: none"> 「ちょうだいは？」に身振り。 「ありがとうは？」に身振り。 「怒っちゃ大変」に手を振る。 「いただきます」は自主的に。 「デキタは？」に手をたたく。 	<ul style="list-style-type: none"> できる身振りはできるだけ活用する。 同じ流れでくり返す。 同じ指示でくり返す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「負わせて」を要求。 操作ができる度に「デキタ」を表現。 指示すれば、ちょうだい、ありがとう、ごめんなさい、いただきます、いこう、バス、兎、----身振りを次々とする。 リュックをさっと取りに行く。 名前を呼ばれるまで待つ。 移動がさっさと早くなる。 	
見通し、意欲、自制	<ul style="list-style-type: none"> ジュースを勝手にのんだり、バスに先に乗ったりして注意される。 			

「なかよし遠足」での成功を足がかりに、類似単元「炊飯遠足(10月)」「いもほり(10月)」で追跡実践を試みた結果、「なかよし遠足」同様の結果に加えて、「いもを出すと、庖丁とまな板を持ってくる」等の、かなり先を見通した積極的行動や、「砂場にいもをうめて掘り出して遊ぶ」等、創造的な活動が見られた。この生活意欲ややる気に支えられて、身振り、引っぱりや指さし要求、読みとり可能語も増え、学習や生活の中に自主的な形で出るようになった。

4 個別学習による取り組み — 生活や学習との密接な連携、興味ある遊びを通して —

(1) 個別学習を設定した理由と指導の方法

- ① 注意の形成期から模倣期に移行を示し、身振り言語を広げていく時期である。何げなく使う身振りを、流れを止めた、刺激の少ない環境で意識的に言語と結びつけたり、一定の身振りに強化して生活にもどしていく場が必要である。
- ② 刺激への反応が敏感で、言葉や表現よりも行動が先行する視覚運動回路優位型である。集中させてじっくり聞きとったり、動作、操作したり、人と対話する態度を育てる場が必要である。
- ③ 先行実践や「ことば指導」の書を参考にE児の言語能力を器質的、機能的、認知的な面から、また音声、身振り、文字言語の面からの実態を把握し、能力を伸ばす方法を探りたい。
- ④ 指導に当たっては、機械的な無味な項目的観察や訓練ではなく、生活に密着した、生活単元や教科と連携ある教材を通じた指導、遊びを工夫していく。逆に習得した能力の実践化を常に心がける。更に、週2回、30分の学習を平均的な内容で、効率的にするために、また学習に見通しを持たせ情緒の安定をはかるために、学習の流れをパターン化してくり返す。

(2) 個別学習の実践例(9時~9時30分、教室で、他の児童は担任とプレイルームで自由運動)

	指示・模倣	弁別、分類	身振り、模倣	文字遊び	内言語の醸成	発声を促す	備考
9月5日	<ul style="list-style-type: none"> 靴をはきなさい(○) いすにすわりなさい(○) 顔の部分のポインティング指示 → 模倣(△) 	←部分練習(各3)、総合的遊び(3)と、くり返す→ (旗)(カード)	(ヨーイドン) <ul style="list-style-type: none"> ヨーイドンで手をたく(△→○へ) 文字カードの弁別(○) 赤、黄、緑の弁別(○) 文字カードと色旗のマッチング(○) 	<ul style="list-style-type: none"> しおり「うんどうかい」を見て、絵の指さしをする。 「たまいれ」と「たまころがし」の混同以外(○) 	<ul style="list-style-type: none"> ふうせんをふくらます(○) ラムネ菓子を見て「パッパッ → マ、マ、」までの発声を促す(○) 「オーイ」(x) 	<ul style="list-style-type: none"> 生活単元「うんどう会」と連携。 ほとんどできる事をくり返し、1/10 ~ 2/10 程度の抵抗を加えた。 身振りが正確になっている。 	
12月1日	<ul style="list-style-type: none"> バケツにタオルを入れなさい(○) いすを前に引きなさい(○) 戸を閉めて(△) 	<ul style="list-style-type: none"> 鈴、タンブリン、カスタの音当て(○) 好きなカスタをすぐ取ろうとし、注意される。 	<ul style="list-style-type: none"> 「さるとかに」の歌から自分で身振りを作る。 「ほしい」「たべたい」「はさみ」「投げる」等10種 	<ul style="list-style-type: none"> 「さるとかに」の登場人物10種の文字と絵のマッチング 「かき」「かきのたね」の混同以外全部(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本「さるとかに」を見て、絵の指さし、動作化をする 「たねをうえる、水をかけるなど」 	<ul style="list-style-type: none"> ろうそくや紙吹雪をふく競争(○) 棒つきのあめを使って舌を出す(△) 舌を出す(△) 	<ul style="list-style-type: none"> 生活単元「クリスマス会」の劇と連携 自分で作る身振りを誉めて承認。先生の身振りの模倣も加えて劇での身振りが確実に増えていった。



絵と文字のマッチングをするE子

(3) 個別学習への考察

着席行動、注視ができたE子への個別学習は、E子が刺激に対し敏感に反応を示し、静かな環境場面も必要なこともあって、「デキタ」「オシマイ」「私に～を下さい」等の身振り、「ボタン止めやはさみの使用」等、技能の向上、その他種々の面で有効であると考える。また、個別学習で確認されたり獲得された能力が、かなり生活化されていった点

で生活や学習と密接に連携していく事が重要なポイントであると考えられる。

5 発達、コミュニケーション能力の再評価と考察(59.12月末)

E子のコミュニケーション能力や、その背景にある全人的発達について再評価し、P7 図表、P8 図表に◎—◎で記入してみると、両者ともかなりの向上を見ることができ、E子の重点課題が少しずつではあるが改善されつつあることがわかる。このことは、右頁の表に示す伝達に関する具体的事実でもわかる。

6 今後の課題と展望

「意欲的な生活への取り組みこそコミュニケーション能力の向上の基底である」という考え方から

伝達に関する具体的事実

要求・訴えの身振り	自発的	「～をちょうだい」「できた」「だめ」「おいで」「はい」その他あいさつ、指さし、引っぱる訴えを自発的にする。	音声・叫声	「ア－ア－」「アワワ ----」「マンマ」「ブーブー」「オー」喃語様音の音質がバラエティーに富み、区切れだした。
	指示的	「お願いします」「ありがとう」「行こう」「読んでください」「おしっこ」「できません」「たべたい」等、いわれてする。	指示理解	日常生活にほとんど支障をきたさない程度に指示が理解でき、言いまかせれば、自制する事もみられだした。
名詞・形容詞等の身振り	自発的	「どんぐり」「ころころ」「池」「大きい」「小さい」「おいしい」等、歌詞に合わせてどんどん作る。	文字	<ul style="list-style-type: none"> ・「はち」「くり」等2文字～「にんじん」「たまねぎ」等4文字程度までのカード取りや絵とのマッチング。 ・1文字では、㊟、㊢等名詞以外に、㊤㊦等10文字程度取れる。 ・文字を並べて単語を作ることはまだできない。
	指示的	・特徴のある動物(犬、猫、兎等)、歌詞やおどりにあるもの(汽車、自動車、ねる、咲く等)、ほとんど身振りで示す。		
伝達記事に項(11月)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会の劇のいろいろな役をまねて身振りをした。 ・呼びかけに、2度続けて音声らしいものが返ってきた。 ・「～したい人?」とか、「～しますか」に、さっと挙手をして「イエス」の反応を示しだした。 ・少しの援助で自分の名前6文字が並べられた。 ・要求したい人の服を引っぱり、伝達しだした。 			

生活単元学習を中心にした指導形態で、更にその中で個別配慮を、または連携した形で個別学習を試みてきた。その結果や考察については既に述べた通り、E子の実態、課題には適した方法であり、今後も続けていきたいと考える。

しかし、E子の発達に伴って、個別学習の教育課程での位置づけや時間数、担任以外の指導者の問題、家庭学習等、更に追求してみる必要がある。

「豊かな心を持って、たくましい行動をする子」として、E子のコミュニケーション能力は、確かに、特に身振りや文字の反応的言語面では一つのステップを越えたと考える。更に自主的な身振りの拡大、文字の獲得と単語の構成力の向上へと発展していくことが予想される。この中にあって、音声言語の面では、まだまだ混とんとした状態で、特筆すべき指導法や展望を述べるに至らないが、時には動作と声が結びついたり、音質が多様になっていること、笑い声や泣き声が大きくなっていること等、増加している小さな事実に期待をして、トータルな指導を背景にしながらの音声言語へとより近づいていく指導法を更に追求していきたい。

友達の中で、楽しく、生き生きと取り組む学校生活の中で、これ等の課題をE子がたくましく乗り越えていくことを願っている。